

研究主題 **豊かに生きる力の育成**
～自分を知り「なりたい自分」に近づくキャリア教育の実践～

1 題材名 「ともだちと なかよくなろう」(イ よりよい人間関係の形成)

2 題材の目標

まだ仲良くなれていないクラスの友達がいることに気づき、みんなと仲良くなるための方法を話し合っ、自分のめあてをもち実践できるようにする。

3 本題材の評価規準とキャリア教育を通して育みたい力(評価規準マトリクス)

低学年の基礎的汎用的能力(夢4)		よりよい生活を楽しむための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
人や社会と かかわる力  【人間関係形成・社会形成能力】	・自分の思いを友達に伝える力	①友達との関わりをよりよくすることの大切さを理解し、そのための方法や仕方を身に付けている。		①友達への関わりをよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲良くしてよりよい人間関係を形成しようとしている。
自分を みつめる力  【自己理解・自己管理能力】	・周りからよいところを教えてもらい、自分のよさに気づく力		①友達との関わり方についての諸課題を知り、友達への関わりをよりよいものにするための方法について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	
課題を やりぬく力  【課題対応能力】	・自分のめあてをもって実行する力			
次に つなげる力  【キャリアプランニング能力】	・自分の課題に気づき、次に生かそうとする力			

※キャリア教育と関連が密接なものは**ゴシック体・太字**

4 部会提案

(1) 児童の実態と題材観

本学級は、元気で素直な児童が多い。日直や給食、掃除等の当番活動にも意欲的に取り組んできている。友達との関係もおおむね良好で、すすんで話し合いをしたり、男女分け隔てなく関わったりすることができる。しかし、中には友達との適切な関わり方が分からず、手が出てしまったり自分の気持ちを押し付けたり、また伝え方が分からずに沈黙してしまう児童もいる。そのため、児童同士のトラブルがあった時は相手の気持ちを考えさせたり適切な行動や言動について示したりして指導している。

入学して2か月が経った6月に、学校生活やクラスの友達に慣れてきたところで学級目標について話し合った。児童に、「3月にどんな1年生になりたいか」「3月までにどんなクラスにしたいか」を考えさせて決定した。様々な意見の中から児童の思いを踏まえ、学級目標を「たのしくげんきなクラス」「なかよくたすけあうクラス」「さいごまでやりぬくクラス」と決定した。学級目標については、日々振り返るようにしており、めあてを意識しながら生活する児童が増えてきている。

学級目標を決め、意識して生活をする中で、新しい友達との関わりも少しずつ増えてきた。係活動を中心に、いろいろな友達と関わる機会を意図的に設けることで、クラス目標の「なかよくたすけあうクラス」を意識できるようにしてきた。そこで、友達と仲良くできているかについてアンケートを実施することにした。全員と仲良くなっていると書いた児童が24名、仲良くできていないと書いた児童が11名であった。人数としては、過半数の児童が全員と仲良くできていると感じているが、仲良くできていないと感じている児童の理由を見ると、「名前が覚えられていないから」「まだしゃべっていない人がいるから」「もっとたくさんの人と遊びたいから」等とあり、客観的に自分のことを見たり、もっと友達と関わりたいと思ったりしている児童がいた。そこで、学級目標にもある「なかよく」が十分にできているか、「なかよく」とは、どういう姿なのかを考えることを通して、もっと多くの友達との関わりを増やしてほしいという願いを込めて、本題材を設定した。

(2) 低学年の目指す児童像

挑戦 (t r y)

挑戦し、自分の「できる」を見付ける子ども

(3) 目指す児童像を実現するための手だてと関連する夢4

<p>【手だて1】:「なりたい自分」をイメージしやすくするために</p> <p>○<u>アンケートや友達と仲良くしている様子のイラストを効果的に使用する</u></p> <p>児童一人一人が「みんななかよく」ということについて考えられるようにする。</p> <p>アンケートでは、みんなと仲良くなれているか、そうでないか、なぜそう思うのか等の回答を集計して視覚化することで、クラスの現状を全体で把握できるようにする。また、あまりみんなと仲良くなれていないと答えた児童については、仲良くなるためのキーワードを話し合いの中から考え、少しでも多くの友達と関わろうと思えるようにしていきたい。</p>	<p>【夢4】</p>  
<p>【手だて2】: 実践 (= 挑戦) への意欲付けとなるようにするために</p> <p>○<u>夢4ファイルの活用</u></p> <p>めあてを達成した時に、夢4ファイルに綴じてあるワークシートに色を塗っていくことで達成感を得られるようにする。</p> <p>○<u>振り返りの時間の設定</u></p> <p>めあてを達成している友達を見付ける時間を設定し、よりよい人間関係の形成を促す。</p>	<p>【夢4】</p>  

5 指導計画

	月 日	児童の活動	◆指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
事前	6月9日	○クラスの友達と仲よくなれているか、アンケートに答える。	◆学級目標を意識させながら書くように促す。 ◆関心をもって生活させ、意識を高めておく。	【思・判・表①】 ・アンケートを記入し、 <u>友達との関わり方についての諸課題について考えている。</u> (観察・アンケート) 
本時	7月6日	「本時の活動」参照	「本時の活動」参照	【思・判・表①】 ・ <u>友達への関わりをよりよいものにするための方法について考え、前向きに話し合っている。</u> (発言・学習カード)  【思・判・表①】 ・ <u>自分の課題に合った具体的なめあてを決めている。</u> (発言・学習カード) 
事後	適宜	○意思決定したためあてを意識して実践する。 ○実践したことについて振り返る。	◆一人一人のめあてを夢4ファイルにとじ、実践への意欲付けとなるようにする。 ◆めあてを達成している友達を見付ける機会を設定する。 (帰りの会等)	【主①】 ・ <u>他者と仲良くしてよりよい人間関係を形成しようとしている。</u>  【思・判・表①】 ・ <u>意思決定したことを実践している。</u>  【知・技①】 ・ <u>友達との関わりをよりよくすることの大切さを理解し、そのための方法や仕方を身に付けている。</u> 

※波線はキャリア教育の視点

6 本時の学習（1時間扱いの1時間目）

(1) 本時の目標

まだ仲良くなれていないクラスの友達がいることに気付き、みんなと仲良くなるための方法を話し合っ、自分のめあてをもち実践できるようにする。

(2) キャリア教育の重点

◎友達との関わりをよりよいものにするための方法を話し合う活動を通して、自分の思いを友達に伝える力を育む。【人間関係形成・社会形成能力】

(3) 展開

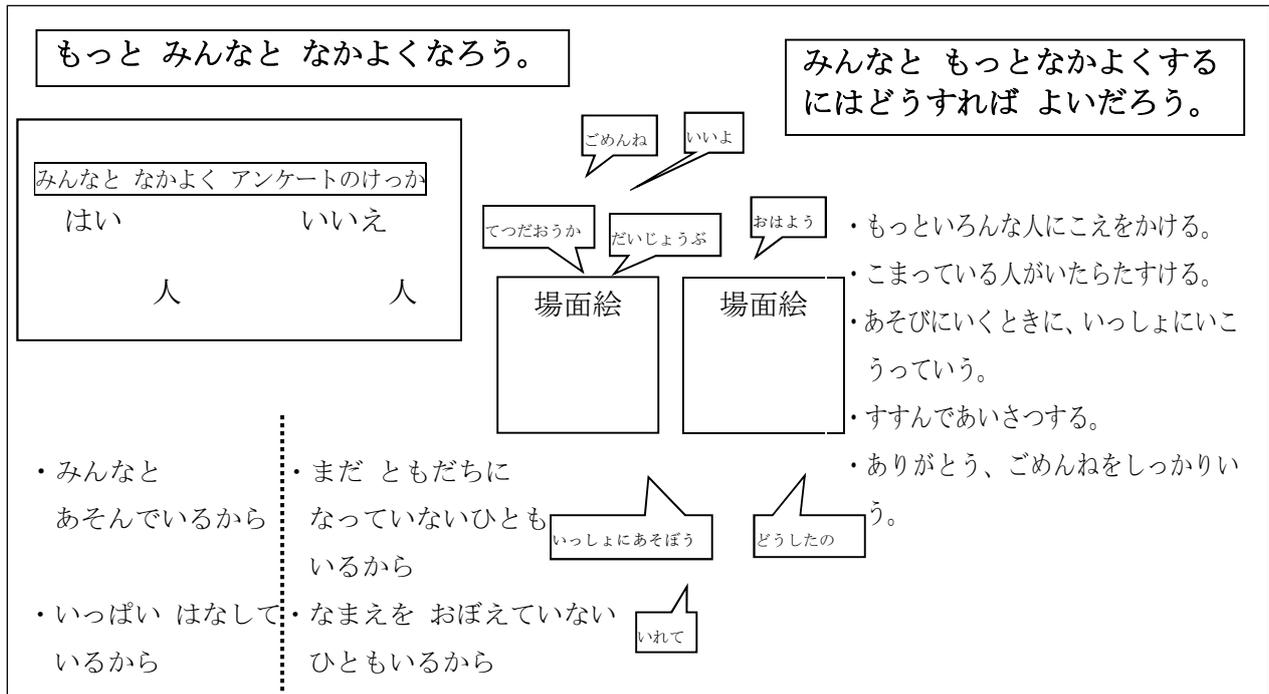
段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入 5分 つかむ	1 本時の課題を知る。 ・アンケートの結果を見て、感じたことを発表する。 ・アンケートから自分の問題点を把握する。	・アンケート結果	○アンケートの結果を見て、まだ友達に慣れていない児童がいることに気付くように促す。 ○アンケートの記述内容にも触れることで、友達がどのような思いでいるかを感じられるようにし、自分の問題として捉えられるようにする。
もっとみんなとなかよくなるろう。			
展開 3分 5分 さぐる	2 絵を見て、どうして仲良くなれているのかを考える。 ・自分から声を掛けている ・困っていたら、助けている ・困っていたら、声を掛けている。 ・「ありがとう」「ごめんね」を言っている。 ・「おはよう」って言っている。	【個人】→【グループ】 →【全体】 場面絵	○アンケートの回答から、仲良くなれている理由を表す場面の絵を掲示し、どうして仲良くなっているのかを考えられるようにする。
みつけ	3 もっとクラスの友達と仲良くなるためには、どうすればよいのか話し合う。 ・もっといろんな人に声を掛ける。 ・困っている人がいたら助ける。 ・遊びに行く時に、一緒に行こうって言う。 ・すすんであいさつする。 ・「ありがとう」「ごめんね」をしっかり言う。	【全体】	○みんなと仲良くするためには、いろいろな関わり方があることを具体的に確認していき、相手の気持ちを感じられるようにする。 ● <u>友達への関わりをよりよいものにするための方法について考え、前向きに話し合っている。</u> 【思・判・表①】 (発言・学習カード)
終末 5分 さめる	4 みんなと仲良くなるために、自分ができることを考え、めあてをカードに記入する。 ・名前を全員覚える。 ・自分からあいさつする。 ・ありがとうをしっかり言う。 ・「遊ぼう」って声を掛ける。	【個人】 学習カード	○自分がすぐ実践できるよう、具体的な内容を書くように伝える。 ● <u>自分の問題に合った可能な取組や方法を決めている。</u> 【思・判・表①】 (発言・学習カード)



※波線はキャリア教育の視点

7 板書計画

【板書計画】



7 実践を終えて

成果

- ・アンケートの結果を視覚化することで、クラスの現状を学級全体で把握することができた。場面絵を活用することで、語彙力が十分でなかったり個人差があったりする1年生でも、仲良くなることにつながる行動について考えて話し合うことができた。また、どうすればみんなとより仲良くすることができるかという気付きにもつながった。そのため、キャリア教育で培うべき、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができる「人間関係形成・社会形成能力」を養うことにつながったと考えられる。また、場面絵の活用を本学習だけではなく日常的に適宜活用したり、児童から出てきた仲良くなるための言葉を教室に掲示して日々活用したりすることで、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践することができた。
- ・毎週、めあてについて振り返り、夢4ファイルに綴じてあるワークシートに色を塗っていくことで達成感を得られた。仲良くするために実践したことが、よりよい人間関係の構築につながった。
- ・帰りの会で、自分や友達が実践したことについて発表する機会を設けたことで、「人間関係形成・社会形成能力」だけでなく「課題対応能力」を養うことにつながった。めあてについて実践していく中で、新たな課題を発見し、友達と共有することで解決しようとする機会を多く得られた。

課題

- ・より自分事として一人一人が本時の課題に向き合うために、「あまりみんなと仲良くなれていない」と答えた児童の意見をしっかりと意識付ける必要があった。仲良くなれていないと感じている児童に発言させる等、発問を工夫することで、より自分事として学習課題を捉えることができるようになることが考えられる。